

## 大田区自立支援協議会 防災部会議事録

文責：区事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第10回防災部会（さぼーとぴあ防災訓練）		
(2) 開催日時	平成29年2月15日（水）9：00～12：00		
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター 5階多目的室		
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：栗田 修平）		＜敬称略＞
	志村 陽子	竹内 奈津子	竹内 千代江
	石塚 由江	市川 脩	岡戸 繁樹
	オブザーバー： 八尾 隆一（蒲田警察署）、入舩 寛樹・菅野 瑠一（大森消防署）、 都甲 周二（田園調布消防署）、田村 克彦（南六郷福祉園）、 林 達彦（大森赤十字病院、地域移行・地域生活支援部会委員）		
	区職員： 内川 洋一（災害対策担当課長）、阿部 幸喜（防災危機管理課）、 鎌田 裕一（上池台障害者福祉会館長）、吉田 実（障害福祉課）、 斉藤 緑美・小泉 洋子（障がい者総合サポートセンター）		
	関係者： 菅沼 良勝（障がい者総合サポートセンター 統括管理者）、 神作 彩子（障がい者総合サポートセンター 副統括管理者）、 土井 翼・内田 優子（障がい者総合サポートセンター 地域交流支援部門）、 山田 達也・広瀬 健次郎（障がい者総合サポートセンター 就労支援部門）		
事務局： 井村 陽介・岩下 祐輔・関根 あずさ（障害福祉課）			
<p>1 さぼーとぴあ防災訓練</p> <p>(1) 福祉避難所開設訓練（9：00～11：00）</p> <p>(2) 避難訓練（11：00～11：30）</p> <p>2 訓練振り返り・年度まとめ（11：30～12：00）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1階受付で誘導がうまくいかなかったり、人が滞留してしまったりなど、反省はあるが、それもやってみなければ分からないこと。</li> <li>・補聴器なしでやってみたが、筆談ができるのかどうかわからず不安だった。表記があると安心する。筆談ボードなどもあった方がいい。</li> <li>・受付表を書いた後がどうしていいかわからず不安だった。文字表示があるといい。</li> <li>・トイレ内にも案内があるといいと感じた（「災害時はランプが点滅します」など）。</li> <li>・日赤病院との連携が必要。連携体制を考えていかないといけない。</li> <li>・施設長会の人達も来ていた。訓練の流れなどを共有し広げてほしい。</li> <li>・班ごとのタイムラインがほしい。参考にしたい。</li> <li>・改めて5階に上がってくるのは大変だと感じた。</li> <li>・最終的には、学校避難所をバリアフリーにしていく必要がある。</li> </ul>			

- さぼーとぴあの職員には自分達でやるという意識を持ってほしい。
- 車いすの方をどうするか、エレベーターが使えない場合どうするか、など課題をどうするか改めて考えていく必要がある。
- 素晴らしい設備が揃っているので、宝の持ち腐れにならないようにしないといけない。職員みんなが使えるようにする必要がある。
- 案内で各障がいの特性が理解されていないと感じた。
- 避難訓練で、「最後に行きましょう」と言われたが、そのように言われるととても不安だし怖いと感じた。
- 今回はエレベーターを使うことができたが、実際はどうするのか。その点についても次回で取り入れてほしい。
- 受付でコミュニケーションがうまくとれなかった。すぐに手話通訳者を呼んでいた。コミュニケーション手段には色々な方法がある。ヘルプカードを活用し、必要に応じて筆談するなどの工夫をしてほしい。
- 誘導が「どうぞどうぞ」で終わっていた。
- 避難訓練の際に知的の方が一人で移動していた。付添がないといけないのではないか。
- 職員間の遠慮が見えた。まずは職員間の連携をとることが必要。
- 防災部会の意見を取り入れ、積極的にやってくださったことに感謝をしている。
- 福祉避難所の訓練が他の施設にも広がってほしい。
- 自分の施設でどうしていくのかということを考えるきっかけができた。